

日教振第116号

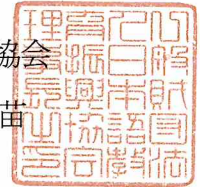
令和7年10月21日

学校法人国際ことば学院

理事長 袴田靖子 殿

一般財団法人日本語教育振興協会

理事長 加藤早苗



日振協第三者評価の認証について（お知らせ）

標記のことについて、貴日本語教育機関（国際ことば学院日本語学校）は、別添のとおり、日振協第三者評価が求める水準に達しているものとして認証されましたのでお知らせします。

なお、補完資料によって十分に認証レベルに達していると判断されましたことを申し添えます。



第25-M0002号

認 証 証 明 書

貴日本語教育機関は、日振協第三者評価が求める水準に達しているものとして、
下記のとおり認証します。

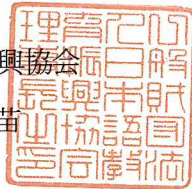
記

- 1 名 称 国際ことば学院日本語学校
- 2 所 在 地 静岡県静岡市駿河区八幡3丁目2-28
- 3 認 証 期 間 2025年10月1日から2030年9月30日まで

2025年 10 月 1 日

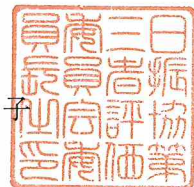
一般財団法人 日本語教育振興協会

理事長 加藤 早苗



日振協第三者評価委員会

委員長 佐々木 倫子



日振協第三者評価総合所見

日本語教育機関名：国際ことば学院日本語学校

評価委員： 佐々木 倫子(主担当) 小瀧 雅子(副担当)

実施日： 2025 年 9 月 26 日 9:30 ～ 15:50

●項目別評価

評価項目1（教育の理念・目標と、その具体化のための方策）

- i) 理念と教育目標の関連
- ii) 理念・教育目標に基づいた教育計画の立案と実施
- iii) 理念・教育目標の教職員及び学生への周知
- iv) 課題明確化と具体的改善計画の立案

コメント 問題ありません

「世界中の多様な人間同士が学びあい、支えあう場を創造する」という理念のもと、「生徒が様々な人と触れ合いながら、学ぶ喜びを感じる場にあること」「学校全体が信頼しあう場になっていること」「生徒が幸福な社会づくりに貢献する学校であること」というやや抽象的な教育目標が掲げられているが、校長、主任教員はもとより、一般教員もそれをもって授業づくりに臨む姿勢を見せている。見学したクラスでは一体感に満ちた中で、明るく、協働学習が進められていた。

現在、来年度の認定申請に向けて、大きな教育課程の改革を推進中であるが、その基本にも上述の理念、目標が据えられている。同時に、理念、目標の具体化については継続的に振り返りを行っていくことが求められるものと捉えている点が評価される。

評価項目2（日本語教育機関の運営）

- i) 着眼点①～④の項目及び機関独自に設定した課題の達成状況
- ii) 着眼点②～④についての課題明確化と具体的かつ的確な改善計画の立案
- iii) 客観的な根拠に基づいた自己評価

コメント 問題ありません

2025年～2029年 国際ことば学院日本語学校中期学校経営計画を策定し、「共有と透明性」が成功の鍵とされ、(1)学生募集活動の見直し、(2)多様な授業科目を設置したり地域連携活動を強化するなど教育活動の充実、(3)ライフプラン設計の一助という教育力の向上をめざす、とする3つの考え方がまとめられている。そして、教職員全体でラウンドテーブルの形で意見を出し合い、学校法人理事長(兼専門学校長)に提言するなどの方策を進めている。

評価項目3（情報公開）

- i) 情報の質（情報の新しさを含む）、量、及び、情報公開の形態の適切性
- ii) 課題の明確化と具体的な改善計画の立案

コメント 改善中

これまでは Web サイトで情報を見て学校に申し込む例が限られており、親族や友人関係から、卒業生が出身地で設立した学校からの入学希望者で定員が満足するレベルまで充足されてきたこと、Web 担当者がたまたま休職中であることから、現時点では満足する水準にはない。しかし、多様な学生の入学を推進する意味からも、学校の透明性を高める上からも、Web サイトの改訂に着手し、年度内には公開予定である。

評価項目4（入学者の募集と選考）

- i) 着眼点を踏まえた適正な募集活動
- ii) 着眼点を踏まえた適切な入学選考
- iii) 目標とする入学者数の獲得と入学定員の充足

コメント 改善の姿勢が見られ、問題ありません

安定した応募が維持されており、定員充足率は現時点で 75%である。問題はないが、むしろ、さらなる教育の質の向上のため、現在県に対して定員減員を申請中である。

生徒募集の段階から、言語活動による他者理解に共鳴する者かどうかを見きわめているとの説明がなされたが、さらに昨年度は戦略的募集の点から、より意欲のある入学者選別を試み、現在入学後の成績との相関を見ている。また、今年度はある地域において、高校成績優秀者、特技のある者、高校での日本語成績の優秀な者の3枠を設けて選抜し、入学後の成績との相関を見る予定を立てている。

評価項目5（教育活動）

- i) 着眼点①～③の実施の度合い
- ii) 教育目標に合致した教育計画の立案、実施とその効果の記録等による確認
- iii) 課題の明確化と課題達成のための具体的計画の立案
- iv) 教育活動の計画・実施・検証する体制の整備
- v) 内外の日本語教育に関する新たな情報の収集と教育活動の向上にむけた活用

コメント 書類上の説明責任の点で問題があります

面接審査の際の口頭説明では、学習目標と教育・学習活動と評価方法が結びつけられているにも関わらず、その確認が難しい資料が提出されている。自律学習能力と協働学習能力の育成に力を入れた授業活動が立案され、実践されているにも関わらず、文章化は内部資料に留まっている。着眼点で示された試みに関する、実施と検証の報告が必要である。

提出された教育課程は、一見主教材にそって時間数が割り振られ、学期の目標として主教材

（一財）日本語教育振興協会

に適合する「できる」記述文が書かれているだけのような印象を与える。しかし、実際の授業実践では教科書のテーマ等を十分消化した上で、学生が主体的に学んでいくことを引き出すような教育活動が担当教員によってそれぞれ立案され実施されている。「漢字検定」と書かれただけの教育活動も、学生の学習管理能力を育成する上できわめて有効なものである。ひとつひとつの「できる」記述を積み上げて、全体としては B2 レベルに到達するまでの道筋を示す資料作成が、教員の活動を後押しする上でも期待される。

評価項目 6（教職員育成）

- i) 着眼点で示す項目の実施の程度と方法
- ii) 教員評価の方法や評価基準の適切性
- iii) 改善すべき課題の明確化と、達成に向けた具体的計画の立案

コメント やや問題があります

教職員の働く環境についても留意されているだけでなく、「教員の校内キャリアパスと各段階ごとの研修の項目の目安」は教員の成長を促しやすい形にまとめられている。ただ、毎年度の初めにそれを参考に各教職員自身が該当年度の目標を考え、年度末には自己評価を経て、評価をもとに上司との面談を行い、査定に至るといった有効利用の形には至っていない。

評価項目 7（学生支援）

- i) 着眼点で示す項目の実施の程度と方法
- ii) 指導・支援にあたっての学生の人権への配慮
- iii) 学生支援の取り組みの成果（適応、進路、危機対応、入国在留）
- iv) 改善すべき課題の明確化と、達成に向けた具体的計画の立案

コメント 問題ありません

1991 年の創立以来積み重ねられた学生支援の取り組みが、大きな問題の起きない学校生活を生み出している。多少の問題を抱える学生が入学しても、教職員、クラスメート等のフォローで大きな問題には至っていないとの説明がなされた。学生への人権の配慮、進路指導等も経験知が蓄積されている。

評価項目 8（施設・設備）

- i) 着眼点で示す項目の該当状況の確認
- ii) 改善すべき課題の明確化と、改善時期及び改善方法の明示

コメント 問題ありません

当校舎に移転してから年数を重ねてきてはいるが、施設・設備の維持は適切で、大きな不備は起きていない。

教職員室の設備も整えられている。

避難経路はわかりやすいが、年 1 回の避難訓練はなされている。

評価項目9（地域貢献・社会貢献）

- i) 実施している地域貢献・社会貢献活動
- ii) 日本語教育機関の理念・教育目標との合致
- iii) 地域貢献・社会貢献活動の学生への影響と成果

コメント 問題ありません

「地域の日本語学校でありたい」という創立当初からの姿勢が、多くの地域サポーターを生み出し、近隣コミュニティからの支援も大きく、地域行事への参加も頻繁になされている。現在は学生主導型の、学生が支援される側に留まらない地域との交流の目標を掲げ、試みを模索している。

評価項目10（財務）

- i) 財務状況の安定性
- ii) 予算・収支計画の妥当性

コメント 問題ありません

財政的基盤は問題がないと思われたが、当初の提出書類が簡略化されており、事業活動支出における教育研究費や管理経費の内訳が不明であった。しかし、面談では直ちに法人本部の事務局長が呼ばれ、日本語学校部門の事業活動支出の内訳の提示と説明がなされた。

●総合所見

特筆すべき点

・現状に満足せず、誠実に教育に向き合う姿勢が、理事長・校長から初任教員、事務職員に至るまで、共有されている点

改善が望まれる点

・教育実践の資料化に問題があり、説明責任が十分に果たされているとは言えない点

●評価 B

1 週間以内に「評価項目5」に関する自己評価の修正案を根拠資料と共にご提出ください。